

2013年3月期 第2四半期決算IR説明会 質疑応答概要

株式会社メイテック

1. 日 時 2012年11月8日(木) 14:00~14:50
2. 場 所 当社東京本社 カンファレンスルーム
3. 当社側説明者 代表取締役社長 西本 甲介
取締役 國分 秀世
取締役 米田 洋
取締役 中島 清雅
取締役 上村 正人
取締役 永坂 英宣

4. 質 疑 応 答

質問 契約期間の現状は？

回答 契約書に記載する契約期間は約8割が3ヶ月契約となっています。ただし、実質的な契約期間は4年を若干下回る程度であります。尚、リーマンショック前の4年強と比べて、大きな変化はありません。

質問 中国における日系メーカーの研究開発などに与える影響は？中国ビジネスへの影響は？

回答 現時点では大きな影響はありません。また、中国の教育事業においても大きな影響はありません。ただし、この問題が長期化した場合、教育事業の学生募集や、中国の日系メーカーのエンジニア紹介事業への影響は不透明です。尚、現地企業の多くは様子見の状況であり、当社としても事業の撤退等は考えていません。

質問 BMOAの解散に係る税負担減は今限りで、来期以降は通常に戻ると考えてよいか？

回答 その通りです。

質問 10月の契約終了が増加したとのことだが、どの業種が増加しているのか？その背景は？

回答 企業や業種・分野による極端な偏りはありません。顧客の予算は、決算期毎に見直される為、4月と10月に契約開始と契約終了の両方が増加する傾向にあります。尚、10月は期初の想定以上に契約終了が多くなりました。

質問 10月の週単位での契約開始の動向は？

回答 10月の月間実績は資料の通りです。契約の開始は、月初に増加し月末に向けて減少していきます。週単位の動向からトレンドを把握することはできません。

質問 リーマンショック後に実施したエンジニアのローテーションの内容は？

回答 ローテーションはリーマンショック以前からある仕組みです。約1000社の顧客基盤を活かし、業種を超えてローテーションできることが当社の強みです。ただし、リーマンショック時は、全ての業種が不調となり、カバーできる業種が無かったことがネガティブな特徴でした。

質問 10月の動向をみて予想を固めに出されているのではないかと、もう少し上ブレするバッファを見込んでいたという理解でよいのか？

回答 下期の予想は、10月の成約・終了状況を反映した数値であり、11月以降は期初の想定どおりと考えています。ただし、上期と同様に上ブレの可能性が無いとはいえ、また、景況感の変化から下ブレの可能性もあります。

質問 来期から予定する aej の新サービスは事業に寄与するのか？

回答 新しいサービスは短期的に収益に寄与する事業とは位置づけていません。お客さまのエンジニアも含めて、日本の製造業で働くエンジニアたちに、当社グループに共感や親近感を持っていただく仕掛けを考えていきます。

質問 積極的に中途採用する計画と理解していたが、戦略投資の状況を見る限り、計画通り進捗していないのではないかと？

回答 採用目標数は資料の通りです。MT に変更はありませんが、MF の目標を55名下げたことが実態を表しています。

質問 中途採用は難しい市況と聞いているが、その状況は？

回答 確かに採用市場は求人意欲が旺盛で厳しい環境ですが、目標達成に向けて、採用基準を維持しながら、手法を工夫して進めています。

以上